

第8回 東京工業大学先端無機材料共同研究拠点運営委員会議事要録

日 時 平成26年3月11日(火) 10時00分～11時40分

場 所 東京工業大学すずかけ台キャンパス 大学会館2階 集会室1

出席者 佐藤 誠, 坂井悦郎, 片山聖二, 高田雅介,
岡本達雄, 勝俣英雄, 澤岡 昭の各委員

所内説明者 伊藤 満 (応用セラミックス研究所長)
笠井 和彦 (副所長, 共同利用・研究支援室長, 建築物理研究センター長)
川路 均 (安全管理支援室長)
細野 秀雄 (セキュアマテリアル研究センター長)
若井 史博 (特別教育研究費プロジェクト拠点リーダー)

配付資料

- 別紙1. 東京工業大学先端無機材料共同研究拠点運営委員会規程
- 別紙2. 東京工業大学先端無機材料共同研究拠点運営委員会委員名簿
- 別紙3. 第7回東京工業大学先端無機材料共同研究拠点運営委員会議事要録(案)
 - 1-1. 平成25年度応用セラミックス研究所教員人事について
(平成25年10月～平成26年4月【予定】)
 - 1-2. 応用セラミックス研究所教員組織(平成26年3月1日現在)
 - 2-1. 外部資金受入状況について(平成21年度～平成25年度)
 - 2-2. 平成25年度応用セラミックス研究所「受託研究」受入一覧
 - 2-3. 平成25年度応用セラミックス研究所「民間等との共同研究」受入一覧
 - 3-1. 平成25年度共同利用研究利用者データ及び出張状況について
 - 3-2. 平成26年度共同利用研究応募状況
 - 3-3. 平成26年度概算要求事項概要(先端無機材料共同研究拠点の形成)
 - 4. ワークショップ・講演会開催状況
 - 5. 平成25年度学術講演講師
 - 6-1. 応用セラミックス研究所受賞者一覧
 - 6-2. 2013年パブリシティ
 - 6-3. 研究成果が新聞・テレビなどへ取り上げられた件数の推移
 - 7. 応用セラミックス研究所 特許出願・登録状況一覧
 - 8. セキュアマテリアル研究センター活動報告(平成25年3月～平成26年2月)
 - 9. 建築物理研究センター活動報告(平成25年10月～平成26年3月)
- 10-1. 全国共同利用附置研究所連携事業「特異構造金属・無機融合高機能材料開発共同研究プロジェクト」の活動報告
- 10-2. 平成26年度概算要求事項概要(特異構造金属・無機融合高機能材料開発共同研究プロジェクト)

席上配布資料

- News Letter No.31
- 平成25年度連携プロジェクト研究成果報告書

定足数の確認

運営委員総数13名、公務欠席6名、定足基準数7名、定足数4名、出席者7名で成立

議事要録の確認

議長から、前回議事要録（案）について説明があり、これを承認した。

議 題

1. 教員人事について

伊藤所長から、資料1-1～1-2に基づき、平成25年10月1日から平成26年4月1日（予定）の採用者（予定含む）、退職予定者、転出予定者について説明があった後、質疑応答が行われた。

2. 受託研究及び民間等との共同研究等の受入状況について

伊藤所長から、資料2-1～2-3に基づき、平成25年度の外部資金受入状況として、平成21年度からの5年間の推移及び、昨年度と比較した増減について説明があった後、質疑応答が行われた。

3. 共同利用研究について

笠井共同利用・研究支援室長から、資料3-1～3-3に基づき、平成25年度共同利用研究受入研究者データの説明、共同利用研究者の出張状況、平成26年度共同利用研究申請状況、平成26年度概算要求事項の概要として、目的・事業の取組内容、事業の実現に向けた実施体制等について説明があり、また、広報活動として、R3棟1階のロビーに大型ディスプレイを設置し、応セラ研の紹介を行う予定である旨、共同利用研究の報告の際に、パワーポイントによる報告（A4サイズで1枚）を追加したこと、さらに、建築系と無機系の融合のためにワークショップや若手研究者の発表会を実施した旨報告があった。引き続き、伊藤所長から、平成26年度概算要求の運営費交付金の内示額の説明及び、本年度までは、「応セラ研所長賞」として、所内及び外部の研究者を表彰してきたが、来年度より、できるだけ外部の研究者を対象とする「応セラ研学術賞」に変更する予定である旨説明の後、質疑応答が行われた。

4. ワークショップ・講演会開催状況について

伊藤所長から、資料4に基づき、平成25年度9月以降のワークショップ、講演会開催状況について説明があり、応セラ研の取組として、教授・准教授を採用の際は、客観的な評価を受けられるように、複数の候補者による講演会（公開）を実施している旨説明があった後、質疑応答が行われた。

5. 学術講演講師について

伊藤所長から、資料5に基づき、平成25年度の学術講演講師について説明があった後、各講演会毎の参加人数の状況について、質疑応答が行われた。

6. 研究成果等の社会広報について

伊藤所長から、資料6-1～6-3に基づき、教職員及び学生の受賞状況、研究成果が新聞・テレビなどへ取り上げられた件数の推移等について説明の後、質疑応答が行われた。

7. 特許出願・登録状況について

伊藤所長から、資料7に基づき、国内及び外国の特許出願・登録について、年度別に大学全体と比較した状況の説明があった後、出願費用の負担等について質疑応答が行われた。

8. セキュアマテリアル研究センター活動報告について

細野センター長から、資料8に基づき、同センターの活動報告の概要説明があり、同センターの時限が2016年3月までのあと2年と迫っているが、時限終了後も2年程度はバッファが必要であるという発言があった後、これに関して種々意見交換が行われた結果、本委員会として、「時限到達までの研究期間において顕著な実績を残した研究者には、1年ないし2年のバッファの設定が必要である」との提言が出された。

9. 建築物理研究センター活動報告について

笠井センター長から、資料9に基づき、平成25年10月からの活動報告として、センターの人員、人事異動、各研究者の主なテーマ等の説明及び、4月以降欠員となる教員の公募を行う予定であること等の説明があった後、同センターの今後の在り方および、英語による論文発表等について質問があり、笠井センター長から、現在、センター内でも海外への論文の投稿の必要性について話しあっており、教員選考についても世界に通用する国際的な人材を捜す予定である旨回答があった。また、第22期学術の大型研究計画に関するマスタープラン「学術大型研究計画」について日本学術会議事務局から内定の連絡があった旨報告があり、これに関して質疑応答が行われた。

10. 全国共同利用附置研究所連携事業「特異構造金属・無機融合高機能材料開発共同研究プロジェクト」の活動状況について

若井拠点リーダーより、資料10-1～2に基づき、平成25年度のプロジェクトの活動報告として、平成25年度の取組みの概要説明及び、平成26年度概算要求の運営費交付金の内示額等について説明の後、本事業終了後の新しいプロジェクトの在り方について質疑・応答が行われた。

11. その他

澤岡議長から、この2年間の本運営委員会を総括した意見として、全国共同利用附置研究所連携事業「特異構造金属・無機融合高機能材料開発共同研究プロジェクト」終了後の次期プロジェクトについては、現在の6研究所の半数を入れ替える等、大胆な変革が必要であるとの提言があった。

以上